

かみめ太
しんしゅう

第141号

令和7年
8月1日

長野県神社庁
庁報発行委員会
庁報編集委員会
長野市箱清水1-3-28
電話026-232-3355
FAX026-233-2720

特集 第63回神宮式年遷宮特集「御神木祭」

戦後80年特集 | 靖國神社「みたままつり」

沖縄「信濃の塔」慰靈祭

昭和100年特集 | 懐かしの「昭和百年」に見る神社の風景

新役員名簿

本年度より三年間の任期で選任されました

監事	上條	水澤	藤村	丸山	石川	山崎	竹内	甲田	渡邊	宮坂	水野	邦樹	和人	小平	顧問	工藤	熊谷
早出	春日	五明	利夫	洋一	利夫	白鳥	前島	吉彦	正彦	圭吾	克彦	(南佐久)	(上水内)	(木曾)	弘起	高村	芳巳
監事	哲哉	(松塩筑)	貴寿	(北佐久)	肇	彰	(飯水)	佳宏	(南安曇)	直彦	(大)	(上)	(小)	(木曾)	政彰	松澤	求
監事	(南佐久)	(更級)			(長野)	(飯)	(水)	(南安曇)	(伊那)	(諭訪)	(北)	(大)	(北)	(木曾)	淳	富坂	邦樹
副会長	小松	伊倉	順治	(長野)	藤村	吉彦	(松塩筑)	長野県神社総代会役員	前島	正彦	(諭訪)	水野	邦樹	和人	小平	水野	邦樹
副会長	俊夫	(上伊那)							保尊	勤	(南安曇)	宮坂	吉彦	(木曾)	弘起	高村	芳巳
副会長								金木	則興	(大)	(北)	藤村	吉彦	(松塩筑)	政彰	松澤	求
副会長								南佐久	鷹野	利夫	(南佐久)	水野	邦樹	(上水内)	高起	高村	芳巳
副会長								北佐久	武者	利夫	(南佐久)	邦坂	吉彦	(木曾)	政彰	松澤	求
副会長								上伊那	立澤	洋一	(岡谷市)	前島	正彦	(諭訪)	淳	富坂	邦樹
副会長								上小	石和	利夫	(南佐久)	竹内	直彦	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	大平	利彦	(南安曇)	山崎	圭吾	(上水内)	政彰	高村	芳巳
副会長								上伊那	英文	秀吾	(北佐久)	甲田	吉彦	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	壽江	利彦	(北佐久)	渡邊	克彦	(南佐久)	政彰	高村	芳巳
副会長								上伊那	須高	健	(北佐久)	宮坂	吉彦	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	中高	誠司	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	高明	壽男	(北佐久)	高木	高明	(木曾)	政彰	邦樹	吉彦
副会長								上伊那	順治	壽男	(北佐久)	伊倉	順治	(北佐久)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	月岡	鈴木	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	誠司	(北佐久)	高木	高明	(木曾)	政彰	邦樹	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	水野	邦樹
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄	(木曾)	政彰	高村	吉彦
副会長								上伊那	伊倉	順治	(北佐久)	藤本	富士雄</td				



「皇大神宮(内宮)」宇治橋

御遷宮のしおり①・・・御遷宮いろは

第六十三回神宮式年遷宮が、三重県伊勢市の「神宮」で令和十五年に行われます。今年の六月には、木曽で「御榦始祭」が行われ、上松駅前で「御神木祭」が行われました。その報告の前に、「御遷宮」について改めて、一緒に学びたいと思います。

「神宮」とは?

今では「明治神宮」「熱田神宮」「伊弉諾神宮」「北海道神宮」など、「神宮」の社号を使われている神社が全国に数多くあります。その昔は「伊勢の神宮」と「鹿島神宮」と「香取神宮」の三社だけでした。

一般に「伊勢神宮」と呼ばれることが多いので、あえて「伊勢の神宮」と書きましたが、正式には「神宮」というと伊勢の「神宮」のことだけを示します。

そして「内宮(ないくう)」「外宮(げくう)」の他に、「別宮(べつぐう)十四社」「摂社(せつしゃ)四十三社」「末社(まつしや)二十四社」「所管社(しょかんしゃ)四十二社」を合わせた一二五社の総称を「神宮」といいます。また、ないくう・げくうとは、「ぐう」ではなく「くう」と濁らずに発音します。



全く同じ形で建築された「皇大神宮(内宮)」新御正宮

神宮

作: とし 絵: まこ



「天照大御神」は何の神さま？

父である「伊邪那岐（いざなぎ）大神」母である「伊邪那美（いざなみ）大神」の子どもで、天を照らすといった字に現されるように太陽を司る神さまです。太陽の光が大地を照らし、私たちの生命を育む絶対的に大切な御存在、神さまの中でも最高の

が祀られていることは広く知られていますが、前段でお話しの通り一二五の御社がありますから、「外宮」の「豊受大御神（とようけのおおみかみ）」を始め様々な神さまがお祀りされています。

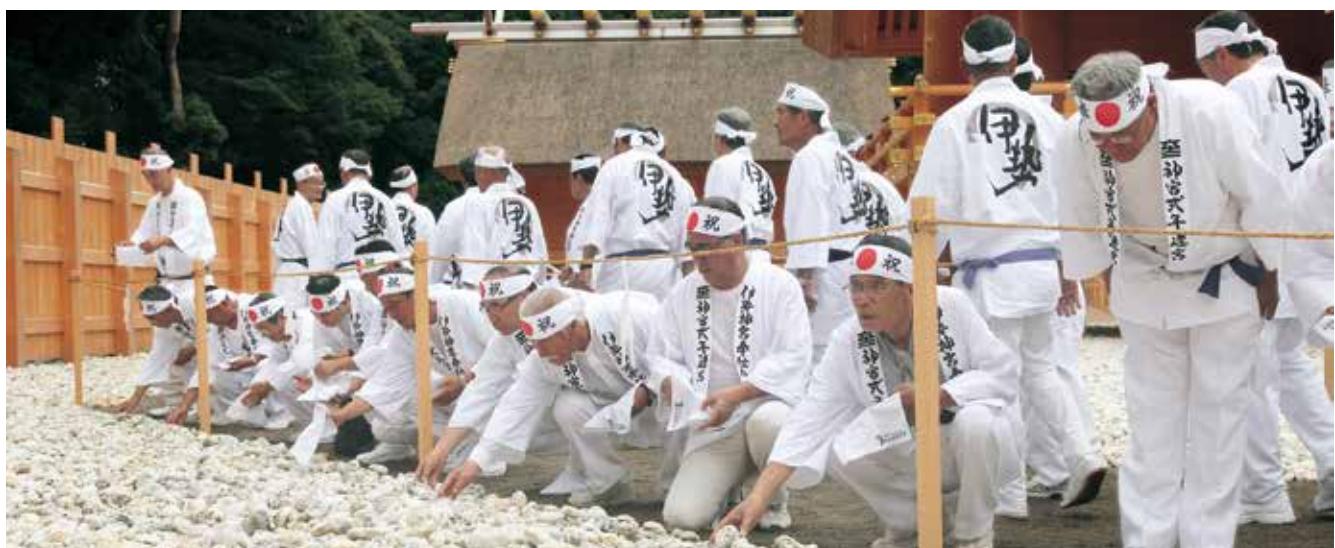
「神宮」には何の神さまが祀られているの？

神さままで、皇室の神さま、日本人の総氏神さまであります。

式年とは？

定められた年のこと、つまり「式年祭」というと「決められた期間ごとに行われる祭典」のことをいいます。伊勢の「神宮」では、「十年を式年として二十年に一度「御遷宮」を行っています。

伊勢神宮ホームページ
<https://www.isejingu.or.jp/index.html>



第62回神宮式年遷宮「御白石持行事」

「御遷宮」とは?

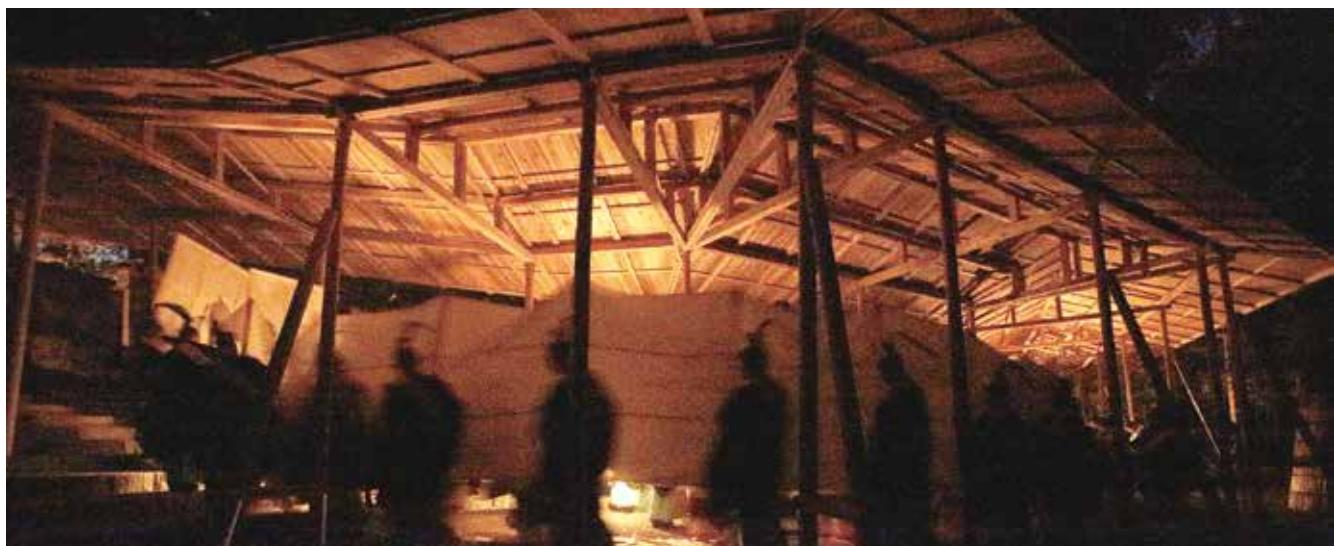
神さまの建物を新しく築き、神さまにお遷り頂くことをいいます。

「神宮」の御遷宮は、今の建物（「正宮」）しょ（うぐう）の隣りにある「御敷地（みしきち）」にまつたく同じ建物を築いて、神さまを今（「正宮」）から新しく築いた「正宮」にお遷り頂くことをいいます。

西の御敷地から東の御敷地へ、二十年後には、東の御敷地から西の御敷地へと神さまがお遷りになる「御遷宮」は、昔ながらの作法によつて続けられています。

今回で第六十二回？

今回で六十三回目を数える「御遷宮」は千三百年以上にわたり国家の一大重儀として続いていますが、長い長い歴史の間には室町時代に百年以上の間、中断せざるを得ないこともあつたようです。ひとたび中断されたものを復興する大変さは、コロナ禍を経て我々神社関係者は特に身に沁みて感じるところではあります、更に昭和に入り戦後の「御遷宮」は国家の手を離れ国民総奉賛として続けられています。



平成25年10月2日 第62回式年遷宮「遷御(内宮)」

なぜ二十年に一度なの？

天武天皇の御発意により始められたものですが、「二十年に一度」の理由は明らかではなく、明らかなのは天武天皇がお定めになつたものだから…です。この理由には様々な説があり、「御用材に持ちうることの二十年だから」「御用材に持つことの出来る檜の育成度合いを鑑みて」「常に清淨な環境で大神様をお祀りするため」「神嘗祭（かんなめさい）でお供えする穀物の最長保存期間が二十年だから」「旧暦では約二十年に一度、立春と元旦が重なる最大の吉日があつたから」などなど。

それらの中でも一番有力とされている説は、「技術の継承に最も適した年月だから」。建物だけではなく、神宝といわれる衣服や装束・武具・楽器・文具や日用品なども新調され、古代の文化と技術・技と心が脈々と現代に受け継ぎ伝えられています。

いつ「御遷宮」が行われるの？

第六十三回の神宮式年遷宮は、令和十五年を予定していますが、今年の五月には「御遷宮」最初の神事であります「山口祭」と「木本（このもと）祭」が行われ、六月に



遷宮は祭儀の他にも伝統技術の継承も行われます

は木曽におきまして御神体を納める「御樋代」の御用材を伐り出す「御杣始（みそまはじめ）祭」が行われました。この御神木を「神宮」に送り出すまで木曽での一連の行事や祭典を「御神木祭」といいますが、次ページより紹介致します。また、令和十五年までの八年間にわたり様々な祭典・行事が執り行われますが、詳細は裏表紙にて紹介をさせて頂きます。（日付は未定）

第63回神宮式年遷宮特設ページ
<https://www.isejingu.or.jp/sengu/the63rd/>



写真提供／神宮司庁



国民総奉賛による遷宮御奉賛に御理解と御協力をお願いします

第六十三回 神宮式年遷宮 特集

長野県神道青年会 会長 神社庁木曽支部教化委員 毛利ゆき乃

『御神木祭』

去る六月三日、木曽郡上松町にあります「赤沢自然休養林」で「御杣始祭（みそまはじめさい）」が執り行われました。「御杣始祭」とは、御神体をお納めする神聖な御器（おんうつわ）「御樋代（みひしろ）」を造るための御用材を伐採する儀式のことを行います。

六月三日

『御杣始祭』

当日は、雨が降りしきるとても寒い日となりました。神宮関係者や来賓が見守る中、杣夫により内宮・外宮一本ずつの御樋代木（御神木）を切り出す「御杣始祭」が肃々と斎行されました。

翌日には、木曽奉賛会を中心となり御神木奉安祭が行われ、六日の奉送祭まで町を上げて様々な奉祝行事が行われました。

御杣始祭



杣夫により三ツ緒伐りでの伐採風景



「内宮」「外宮」に用いられる御樋代木

六月四日

▼お木曳行事



上松町内をお木曳き

午前十時より、御神木を上松駅前にある奉安所まで曳行する「お木曳」行事が執り行われました。木遣りの掛け声に合わせ関係団体や一般の参加者など多くの人の手で町中を曳きながら練り歩きました。この日は前日と打って変わつて晴天の夏日となり、気持ちの良い汗をかきながら賑々しく奉曳されました。

▼奉安祭

午後五時より、御神木を駅前に奉安する「奉安祭」が斎行されました。木曽支部の神職が中心となり、長野県神道青年会の会員も参加し、約三十名の神職により祭典を奉仕しました。

駅前には参列者と多くの見物人や報道関係者が集まり、普段のお祭りとは少し違った



上松駅前で御神木「奉安祭」

緊張感の中で祭典が始まりました。地元上松町諏訪神社徳原ちづる宮司の斎主のもと全員斎服にて奉仕し、同神社巫女による「浦安の舞」奉奏では祭員全員にて歌をつけるなど、厳かな雰囲気で執り行われました。



奉安祭を奉仕した神社庁木曽支部・長野県神道青年会

▼雅楽奉納

午後六時からは信濃雅楽会により「朝日舞」と「落蹲」が奉納され、奉祝行事に華を添えました。



上松駅前で各種奉祝行事

▼神宮式年遷宮写真展

長野県神道青年会では、一般の方に御遷宮について関心を持つて頂く為に、全国の青年神職で組織する神道青年全国協議会にて作成された神宮式年遷宮に関する諸祭事を作成した写真展を設置しました。御神木祭に来た多くの方が足を止め、じっくりと観覧される姿が見受けられました。



御神木「奉送祭」

六月六日

▼奉送祭

午前八時、奉安されていた御神木を奉送用のトラックに乗せ、神宮祢宜辻村光生様御参列のもと、木曾支部の神職を中心として御神木を送り出す「奉送祭」が厳粛に斎行されました。

木曾から伐り出された御神木は、各県にて歓迎を受け、奉祝行事を行いながら伊勢へと進んでいきます。



上松町を出発した御神木は、各所で歓迎を受けました



愛知県 名濃バイパス善師野駐車場にて「引継式」

今回の御神木も、長野県神社庁長を始めとする関係者が乗った車両と、地元保存会のお囃子に先導され、大勢の人たちに見送られながら岐阜県を通り愛知県犬山市の針綱神社へと向かいました。

御神木は長野県から岐阜県へ、岐阜県から愛知県へと入り、名濃バイパス善師野駐車場で待ち受けていた愛知県神社庁へと



愛知県犬山市針綱神社で歓迎を受ける「御神木」

「引継式」を行って、私たちの手を離れます。その後針綱神社では「犬山祭」に曳き出される絢爛豪華な車山（やま）や大勢の人を迎えられ、トラックに積まれた御神木が神社境内に曳き込まれて宮司を始め職員の皆様による「奉安祭」が執り行われました。



愛知県犬山市針綱神社に曳き込まれる「御神木」

令和十五年の御遷宮に向けて今後も様々な祭事が執り行われます。一般の方々にも御遷宮について関心を持つて頂けるよう啓発活動を続けるとともに、今後のすべての祭事が滞りなく納められることをお祈り申し上げます。

今回、二十年に一度の特別な神事に関わることが出来たのも御縁であり、とても貴重で有り難いことだと実感致しました。御

（写真提供／陸上自衛隊 第十二旅団司令部付隊
陸曹長 町田康行様・愛知県神社庁様）

靖國神社『みたままつり』

今年は大東亜戦争終結の昭和二十年より、数えて八十年の節目を迎えた。

そこで、県神道青年会が毎年お参りしております「靖國神社『みたままつり』」と県内十七支部が交代で御奉仕しております「沖縄『信濃の塔』慰靈祭」を紹介致します。

皆様は「靖國神社」と聞くと、何を思い浮かべられますでしょうか？

最近では、気象庁が東京の桜の開花宣言をする際に観測する標本木があることから、毎春「靖國神社」を報道などで目にすらる：という方も多いと思います。

靖國神社は東京都千代田区九段下に鎮座



全国の崇敬者から奉納された提灯の前で(神青会員R7.7.15)

していますが、国家の為に尊い一命を捧げられた人々の御靈を慰め、その事績（御功績）を末永く後世に伝えることを目的に明治二年に建てられました「招魂社」にはじまり、明治十二年に「靖國神社」と社名が改められて今に至ります。

明治天皇が命名された「靖國」という社号には「国を靖（安）んじる」という意味があり、「祖国を平安にする」「平和な国家を建設する」という願いが込められています。東京では新暦の七月にお盆を行いますが、その期間であります七月十三日から十六日にかけて靖國神社では「みたままつり」が行われます。

靖國神社のみたままつりは、昭和二十一年のお盆に長野県遺族会が御靈を慰める為境内で盆踊り大会を開催したのをきっかけとし、翌三十二年から始められました。今日では東京の夏の風物詩として親しまれ、毎年多くの参拝者で賑わいます。期間中、境内には大小三万灯を超える提灯や雪洞

「ほんぱり」
が掲げられ
「御神輿振
り」や「青
森ねぶた」
「和太鼓演
奏」に「阿
波踊り」な
どの奉納行
事が行われ
ます。

靖國神社
の境内にあ
ります「遊就館（ゆうしゅうかん）」には、

幕末から大東亜戦争までの戦没者や軍事関係の遺品・資料などが収められ、ペリー来航以降の国内の内乱・日清戦争から大東亜戦争に至る対外戦争についてなどが歴史を追って展示されています。館内には戦闘機や機関車、ロケット特攻機に人間魚雷（回天）などが展示され、また専用シアターではドキュメント映画も上映されており、日清・日露戦争から大東亜戦争までの近現代戦争史についてが、貴重な映像と史実に基づいて再現されています。靖國神社をお参りされましたら、是非遊就館にも足をお運び下さい。



境内にある「遊就館」

沖縄「信濃の塔」慰靈祭

本年は、沖縄県にあります「信濃の塔」慰靈祭を南安曇支部が担当致しました。参加者は山崎支部長、清水事務局、小平支部員、山越の四名で奉仕致しました。

一月二十八日、沖縄に到着すると気温は十二度、安曇野の冬からすると思つていた印象と異なりましたがほつとする暖かさでした。夕食後、ホテルにて装束・榊等を荷解きし、深夜まで玉串を作りました。翌日は沖縄県護国神社で正式参拝を行い、旧海軍司令部壕では長い壕の中を歩いて進み、

摩文仁の丘「信濃の塔」にて慰靈祭



自決現場では御靈が安らかでありますようお祈りしました。

一月三十日、沖縄県糸満市摩文仁の丘にある「信濃の塔」にて慰靈祭を執り行いました。当日は好天に恵まれ、穏やかな波音と雅楽の音色が響く中、沖縄戦で散華した約千三百柱の御靈を含む長野県出身の戦没者五万五千余柱の安らかなることを祈りながら奉仕しました。慰靈祭には長野県遺族会会长の池内宣訓氏、長野県知事の阿部守一氏をはじめとする約七十名が参列して玉串を奉り、平和への祈りを捧げました。池内氏は「戦争を知らない世代が九割となつた今、いかにして戦争の記憶を語り継ぐかが重要である。」と訴えました。同日、佐久市出身の小池勇助軍医が最期を遂げた糸満市の糸洲の壕で、沖縄戦の事実を風化させず平和学習の場として活用するため、市では手すりの取り付け・献花台、案内板の設置等壕の整備が行われ、竣工式が執り行されました。

戦後八十年が経ち、改めて平和な世の中に生きる今を有難く噛み締めながら安曇野へ帰つて参りました。

(山越秋穂)



懐かしの「昭和百年」に見る神社の風景

本年は昭和に換算すると「昭和百年」にあたる節目です。

これを機に各地の神社や集会所などで大切に保管されている

神社ゆかりの古い写真を募集し、特集記事として紹介いたします。

第一回、編集委員が所蔵していた写真をお届けします。



初回のみ今昔の写真となります



白黒写真を募集します

神社に関する昭和の写真をお持ちでしたらご提供下さい。

下記情報も併せてお知らせ願います。

①神社名 ②鎮座地 ③撮影時期 (例) 昭和初期、〇〇記念行事など

写真は大切に取り扱わせて頂き、ご返却いたします。また記録保存のためデジタルデータ化し、神社庁内にて保管させて頂きますのでご了承下さい。

送付先：長野県神社庁 庁報編集委員会宛（必ず担当宮司を通じて神社庁へ）

御造堂Photo NEWS フォトニュース

○芝宮神社（上伊那郡飯島町七久保鎮座）

宮司 紫芝光司

社務所改築

事業費 約二〇〇〇万円

当社の社務所は、昭和四十八年に建設さ

れ五十年が経過し老朽化が進み、氏子から
の要望も強く、令和五年に建設委員会を立
ち上げ、令和六年七月に着工、同年十二月
十五日に竣工祭を行い、正月の歳旦祭で本
格的に使用開始となりました。

新しい社務所は椅子席にすること等で、
使い勝手の良い工夫が凝ら
されたものが出来上がりま
した。

地域氏子の

皆様、また関
係各位の御協
力に感謝申し
上げます。



敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、

神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむづび和らぎ、
国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

るこ



服忌

家庭に不幸があつた場合、一般的には50日（仏教では49日）を忌中として個人を偲び、神棚に半紙を貼るなどして、おまつりを遠慮します。

忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてからお神札を受けましよう。

なお、五十日祭（仏教では四十九日法要）を忌明けの神事とし、忌が明けましたら神棚の半紙を取り除き、通常の生活に立ち戻るとされています。

神道豆知識

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔



東良勝文
ひがしら まさふみ
熊野皇大神社
北佐久支部
四十七歳
祿宣

此度、北佐久郡軽井沢町鎮座熊野皇大神社祢宜を拝命致しました。昨年度まで県外の神社にて奉職しておりましたが御縁を頂き長野にて御奉仕させて頂くこととなりました。

長野県の風土、文化を学び、一日も早く長野県の神職に相応しい御奉仕が出来ますよう精進して参ります。

若輩の身にて至らぬ点もあるかと存じますが御指導御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

工藤 淑高
くどう よしたか
諏訪神社 祈宣
二十六歳



昨年度まで県外の神社にて、四年間奉仕して参りました。

「神職は一生勉強だ」と諸先輩方より学び、また地域の皆様からあらゆる面で一日置かれることが、自他共に認める神職の理想の姿かと思つております。

斯界での繋がりからも多くを得て、この職に就いて本当に良かつたと心から思える体験を重ねられるよう自己研鑽に努めますので、今後とも御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



内堀晃司
うちぼり こうじ
大屋神社
上小支部
二十八歳
祿宣

この度、上田市の大屋神社権祿宣を拝命致しました。幼少期の頃は神社との深い関わりはありませんでしたが、去年から神職の仕事というものを学び、宮司の祖父が神職一筋の姿を見るにつけ、大屋神社への深い思い入れを感じておりました。

自分も宮司を支えながら祖父の思いを受け継げるような神職として奉仕に励んでいこうと思います。

何卒宜しくお願ひ致します。



原 彰紀
はら あきのり
諏訪神社 上小支部
二十八歳
祿宣

昨年度まで県外の神社にて、四年間奉仕して参りました。

此度習焼神社権祿宣を拝命致しました原彰紀と申します。

此度、諏訪大社権祿宣を拝命致しました。令和四年の式年造営御柱大祭と同時に奉職し、三年間出仕として御奉仕して参りました。この間、氏子の皆様の篤い信仰心や熱心な御奉仕を目の当たりにしまして、私自身も祭典の執行や社頭の護持に万全を期し、懃懃な奉仕を心掛けなければと改めて思つております。

甚だ未熟でございますが、斯界に少しでも貢献できるよう励んで参りますので、御

ましたが、生まれ育ったこの諏訪の地に戻り曾祖父から奉仕をしていました習焼神社へ奉仕をさせて頂くことを嬉しく思っております。長野の土地で新たに神職として歩みを進めることとなりますので、初心に立ち返り、淨明正直に神明奉仕に努める所存でございます。

指導御鞭撻の程宜しくお願ひ致します。



島田 宏
しまだ こう
諏訪神社 宮司
上伊那支部
五十七歳

この度、辰野町諏訪神社の宮司を拝命致しました。平成三年に國學院大學神職養成講習会にて正階を取得し、その後は医療に従事して参りました。

神職の家系に生まれ育った私にとって神社は常に身近な存在でした。当社は古くより地域の信仰の中心として親しまれています。

この由緒ある神社を護り、さらなる発展に尽力するとともに、地域の皆様のお力となれるよう精一杯努めて参る所存です。



林 香織
はやし かおり
八幡宮 称宣
松塩筑支部
五十五歳

この度、八幡宮称宣を拝命し身の引き締まる思いでございます。美しい山々に囲まれた自然豊かな宗賀の里で長年大切に守られてきた神社を、地域の方々と繋がり合い次の世代へと残し伝えていくことが神職と

しての使命の一つと感じております。

経験も浅く若輩者ではあります、先輩神職の皆様方に御指導を頂きながら研鑽に励み、神明奉仕に努めて参る所存でございます。何卒宜しくお願ひ申し上げます。



木村 由布子
きむら ゆうこ
住吉神社 権称宣
南安曇支部
四十九歳

信濃雅楽会に所属し、三十年余御奉仕する中で御縁を頂き、この度令和七年一月一日を以て、住吉神社権称宣を拝命致しました。

神職としての一歩を踏み出せた感動と感謝を忘れずに、心新たに神明奉仕に努めて参ります。

まだまだ経験も浅く未熟で至らない点もあるかと思いますが、諸先輩方から多くを学び、神職として人として成長できるよう邁進して参りますので、御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。



山田 晴己
やまだ はるき
大宮熱田神社 権称宣
南安曇支部
二十六歳

この度、八幡宮称宣を拝命し身の引き締まる思いでございます。美しい山々に囲まれた自然豊かな宗賀の里で長年大切に守られてきた神社を、地域の方々と繋がり合い次の世代へと残し伝えていくことが神職と

した。

私は県外の神社で三年間奉職させて頂いておりましたが、本年四月より地元に戻り先祖が護ってきた神社で御奉仕することになりました。

祭典は地域ごと神社ごとで違いがある為、今は勉強の毎日ですが、神明奉仕に精進していく所存です。



平林 慶大
ひらばやし よしひろ
八王子神社 称宣
大北支部
二十七歳

この度、大町市常盤鎮座・八王子神社称宣を拝命致しました。

幼少の頃から神明奉仕をする祖父や父の姿を見ており、いつか跡を継ぐことを考えて育ちました。

今春から神職としての歩みを始めましたが、先人達が守ってきた信仰の奥深さに圧倒される日々です。

大切な伝統や文化を次の時代に繋ぐため、鋭意努力をして参ります。

浅学非才の身ではございますが、御指導御鞭撻の程宜しくお願ひ致します。

長野県神社庁長感謝状
三十万円以上寄附

支部名	神社名	鎮座地	氏名
飯伊支部	伴野神社	豊丘村	大原俊秀
更級支部	東福寺神社	長野市	宮尾和榮
東福寺神社	東福寺神社	長野市	寺澤 昇
長野市	長野市	長野市	和田文利
鹿島一雄			鹿島一雄
更級支部			更級支部
更級支部			更級支部
更級支部			更級支部

辞令

令和六年十二月

昇級・神職身分二級上	
若一王子神社	宮司
四柱神社	竹内直彦
住吉神社	三一
宮司	大北
祢宜	
北澤道生	
飯田泰之	
三一〇	
南安曇	
諫訪神社	宮島晃一
四柱神社	三一〇
住吉神社	木曾

諏訪大社	別表神社宮司任命	三嶽神社	出速雄小萩神社	宮司	出速雄小萩神社
本宮司	大宮熱田神社	穗高神社	四柱神社	宮司	五十嵐輝
村上益弘	祢宜	權祢宜	宮司	角田雅大	五十嵐輝
四一	山田美幸	鷺尾和浩	宇治橋牧子	四一	四一
諏訪	南安曇	四一	松塙筑	松塙筑	諏訪

		昇任											
		昇任		新任		転入		新任		転入		昇任	
本務替													
戸隠神社 (中島神社より)	大瀧神社 (北野神社より)	宮司	宮司	熊野皇大神社 (京都府賀茂御祖 神社より転入)	八幡宮	大屋神社	大屋神社	小川神社	大星神社	諏訪大社	諏訪大社	葛山落合神社	廣瀬神社
権称宜	大杉明彦	水井裕由	水井裕由	新潟県 大宮熱田神社 (新潟県 大山祇神社より 転入)	諏訪神社	住吉神社	住吉神社	本宮司	兼宮司	本宮司	本宮司	兼宮司	兼宮司
六・二・五	四・一	上水内	上水内	本 権称宜	本 権称宜	本 権称宜	本 権称宜	太田陽一	工藤康高	茅野理也	茅野理也	越志秀徳	越志秀徳
南安曇	上小	下高井	下高井	山田晴己	島田宏	平林慶大	木村由布子	内堀晃司	北爪聖	桃井義弘	桃井義弘	六・二〇	六・二〇
四・一	四・一	上水内	上水内	上伊那	諏訪	大北	二・二・六	一・一	上小	諏訪	諏訪	上伊那	上伊那
上水内	北佐久	南安曇	南安曇	松塙筑	諏訪	南安曇	上伊那	上水内	上水内	上水内	上水内	上水内	上水内

令和7年度長野県神社庁歳入歳出予算書

歳入の部

(単位：円)

款	科 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	696,000	699,000	△3,000	神社本庁より
2	交付金	109,860,000	110,860,000	△1,000,000	本庁交付金
3	負担金	33,870,000	33,870,000	0	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	5,900,000	5,900,000	0	特別寄贈金、特別協賛金
5	財産収入	500,000	500,000	0	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	2,920,000	2,920,000	0	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	2,500,000	2,500,000	0	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	600,000	600,000	0	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	200,000	200,000	0	
11	繰越金	12,834,000	21,831,000	△8,997,000	
合計		170,000,000	180,000,000	△10,000,000	

歳出の部

(単位：円)

款	費 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神官神徳宣揚費交付金	52,415,591	46,016,714	6,398,877	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	9,000,000	9,000,000	0	別表及特別神社、本務・兼務神社、獻幣使参向神社、幣饌料供進神社、獻幣使・随員旅費等
3	会議費	5,300,000	4,500,000	800,000	会議旅費、諸費
4	庁務費	42,966,000	40,686,000	2,280,000	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	27,773,664	27,973,424	△199,760	神社本庁へ
6	事業費	14,200,000	14,200,000	0	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	300,000	300,000	0	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	900,000	800,000	100,000	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	4,400,000	2,500,000	1,900,000	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	2,300,000	2,300,000	0	役職員退職積立金、五県連合総会積立金
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設費	0	20,000,000	△20,000,000	新庁舎事業会計へ
13	予備費	10,394,745	11,673,862	△1,279,117	
合計		170,000,000	180,000,000	△10,000,000	

令和7年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出予算書

歳入の部

(単位：円)

款	科 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,235,000	3,240,000	△5,000	支部負担金、神職掛金
2	災害救助慰藉特別会計交付金	700,000	100,000	600,000	神社庁・総代会
3	本庁見舞金	150,000	150,000	0	
4	雑収入	1,000	1,000	0	雑収入
5	繰越金	5,914,000	6,509,000	△595,000	
合計		10,000,000	10,000,000	0	

歳出の部

(単位：円)

款	費 目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	3,685,000	3,685,000	0	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,040,000	2,040,000	0	神職掛金積立金
3	本庁災害慰藉費	300,000	300,000	0	災害対策資金
4	運営費	60,000	60,000	0	事務費、旅費、雑費
5	予備費	3,915,000	3,915,000	0	
合計		10,000,000	10,000,000	0	



暑 中 見 舞



諏訪大社	上田市下之郷中池西七〇一	生島足島神社	戸隠神社	穂高神社	宮司他職員
諏訪大社	http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira	深志神社	諏訪市茶臼山鎮座	宮司他職員	四柱神社
松本市	宮司他職員	手長神社	宮司前島正社	宮司他職員	若王子神社
松本市	宮司他職員	武水別神社	宮司前島正社	宮司他職員	大町市大字大町二〇九七彦社
木曾総社	木曾御嶽王滝	御嶽神社	飯田市浜井町破魔射場鎮座	宮司他職員	科野宮
木曾総社	宮司武居哲也	御嶽神社	富士山稻荷神社	宮司他職員	宮今下井憲貴治美社
真田三代崇敬社	飯山市小菅の里鎮座	小菅神社	新海三社	佐久宮	宮司佐久宮
上田市中央北鎮座	上伊那郡辰野町	三輪神社	宮司中井原貴美雄	上田市常田鎮座	科野宮
大星神社	上伊那郡辰野町	梅戸神社	宮司茅井野理佑也	上伊那郡飯島町	宮宜立木澤澤精俊寿三輔江社



暑 中 見 舞



大御食神社 宮司宜白鳥俊明 宮代会長新井亮清操俊彦 宮称宜富岡亮清操俊彦 宮司宮田伊利織彦	水無神社 宮司宮田伊利織彦 宮司宮田伊利織彦 宮司宮田伊利織彦 宮司宮田伊利織彦	あづみ野 住吉神社 宮司小飯林田泰健之 子代食小飯林田泰健之 宮司小飯林田泰健之	木曽郡木曽町福島鎮座 木曽郡木曽町福島鎮座 木曽郡木曽町福島鎮座 木曽郡木曽町福島鎮座	暑中見舞 宮司山田充春 宮司山田充春 宮司山田充春 宮司山田充春
守田神社 宮司櫻島田井伸真龍哉一 宮代会計北島田井伸真龍哉一 宮称宜毛利田ゆき乃肇 宮司神利田ゆき乃肇	八幡宮 宮司毛利田ゆき乃肇 宮司毛利田ゆき乃肇 宮司毛利田ゆき乃肇 宮司毛利田ゆき乃肇	湯福神社 宮司齋藤吉睦 子代食齋藤吉睦 宮司齋藤吉睦 宮司齋藤吉睦	木曽郡木曽町開田高原西野 木曽郡木曽町開田高原西野 木曽郡木曽町開田高原西野 木曽郡木曽町開田高原西野	象山神社 宮司齋藤吉睦 宮司齋藤吉睦 宮司齋藤吉睦 宮司齋藤吉睦
小井川賀茂神社 宮司有賀寛典 宮代会長飯田市八幡町一九九九 宮称宜伊藤原義潔雄 宮司伊藤原義潔雄	鳩ヶ嶺八幡宮 重要文化財 宮司伊藤原義潔雄 宮司伊藤原義潔雄 宮司伊藤原義潔雄	仁科神明宮 宮司松口井博秀文吾 子代食松口井博秀文吾 宮司松口井博秀文吾 宮司松口井博秀文吾	國宝 大町市社宮本 大町市社宮本 大町市社宮本 大町市社宮本	有明山神社 宮司丸山一同肇 安曇野市穗高有明字宮城 彫刻で名高き裕明門 宮司丸山一同肇
三嶽神社 宮司宇治橋邦牧彦子 宮代会長塙尻市北小野鎮座 宮称宜宇治橋邦彦子 宮司宇治橋邦彦子	小野神社 宮司熊井芳邦彦彦淳 宮司熊井芳邦彦彦淳 宮司熊井芳邦彦彦淳 宮司熊井芳邦彦彦淳	白山神社 宮司伊藤光宣 伊那市御園区鎮座 宮司伊藤光宣 宮司伊藤光宣	伊那市御園区鎮座 伊那市御園区鎮座 伊那市御園区鎮座 伊那市御園区鎮座	美和神社 宮司深澤藤秀吉夫睦 宮司深澤藤秀吉夫睦



暑 中 見 舞



駒ヶ根市赤穂鎮座

大宮五十鈴神社

宮司白鳥俊明
宜白鳥操子
<http://isuzujinja.com>飯山市五束鎮座
(国重文若宮八幡社)

健御名方富命彦神別神社

宮司高橋
宜高橋
總代会長松本隆
一晶穣

長野市大町鎮座

長沼神社

宮司長沼
宜長沼
權宜誠房忠
一子行

長野市松代町皆神山

熊野出速雄神社

(皆
神
神
社)

宮司武藤弘樹

宮司大澤節明

宮司谷澤三

宮司鹽竈神社

宮司蜂谷澤

宮司大澤

宮司宮澤

安曇野市豊科南穂高

洲波神社
宮澤佳廣社

上田市武石鎮座

子檀嶺神社

宮司清住宗廣
總代会長池内俊郎

上田市生田鎮座

飯沼神社

宮司閑敏邦男廣
總代会長清住敏邦海野氏
真田氏
信州海野宿鎮座

白鳥神社

宮司石和大

上田市真田町長真田鎮座

山家神社

宮司押塚尾森重
婦人会長大塚尾森重
なお美則慎社

安曇野市潮鎮座

神明宮
宮司隱岐有光
子洋宮

編集後記

序報制作にあたり、全神職・全総代と県内二万を超える皆様のお手元に、どういった経路で届くのかを調べる)とから始め、「とにかく手に取ってもらい、中を見てもらい、そして読んで頂きたい…」そんな、歴代編集委員の皆様が当たり前のように願い考えてこられたことを念頭に置き、まずは序報のサイズをB5版からA4版にすることで、文字を大きく読みやすいものすると共に、内容は中学生でも理解できる柔らかい表現を心がけ、専門用語には注釈を入れるようにしたいと思いつながらも、どれも表紙を開いて読んでもらわなければ意味が無いわけで、これらを委員メンバーの共通認識として三年間取り組んで参ります。これまで一番幼稚な委員長、若輩委員長ではございますが、若輩だからこそできることを意識しながら「昭和百年」「戦後八十年」を迎えた此の年、来る「御遷宮」に向けて、多くの方に興味を持つて読んで理解して頂ける序報を編集して参りたいと思っております。今後は、当委員会でホームページも見直させて頂き、二次元バーコードなどを使いホームページともリンクさせながらの新しい『神州』の展開を考えておりますので楽しみにして頂ければ幸いに存じます。

編集委員長 白鳥俊明

第60回全国神社総代会大会が
長野県にて開催されますので
多くの皆様のご参加をお願い致します。

期日	十月二十八日(火)
開会	十二時三千分 清興開始
会場	ホクト文化ホール(長野市若里一ー一ー三)
演題	若者と一緒に地域の未来を(仮題)
講師	長野県立大学学長 金田一 真澄先生



「全国神社総代会大会」ですが、本年は長野県にて左記により開催致します。是非とも、多くの県内氏子総代の皆様でお迎えをお願いします。(入場無料)

毎年、全国各地で開催されています

遷宮の主な祭典と行事

(実施年は前回遷宮の例による)

山口祭(令和七年)

御榊始祭(令和七年)

御船代祭(令和八年)

御木曳行祭(令和八九年)

立柱祭(令和十四年)

宇治橋渡始式(令和十一年)

鎮地祭(令和十一年)

上棟祭(令和十四年)

御白石持行事(令和十五年)

桿築祭(令和十五年)

後鎮祭(令和十五年)

川原大祓(令和十五年)

遷御(令和十五年)

奉幣(令和十五年)

御神樂(令和十五年)

グローバルな視野で

記念講演

若者と一緒に地域の未来を(仮題)

長野県立大学学長 金田一 真澄先生

御用材を切り出すにあたり山の神に安全を祈ります。

御神体を納める「御榊代」の御料材を古作法により伐り出します。

御造宮工事にあたり、御用材に墨を打ち、斧を入れて安全を祈ります。

「御桶代」を納める船形の「御船代」の御用材を伐採するおまつり。

御造宮工事にあたり、御用材に墨を打ち、斧を入れて安全を祈ります。

地元伊勢の住民が揃いの法被姿で御用材を両宮に曳き入れる盛大な行事。

全国の「特別神領民」も多数参加して、伊勢は勇敢な掛け声と木遣音頭に包まれます。

新殿を建てる御敷地での最初のおまつり。「地鎮祭」に相当します。

神宮の象徴となつて「宇治橋」も新しくなり、「渡女」や三世代揃いの夫婦を先頭に盛大に渡り始めを行います。

新殿の建築にあたり、御柱の木口を木槌で打ち安泰を祈ります。

正殿の棟上げの華やかなおまつり。棟木に連なる綱を引き、「千歳棟、万歳棟、曳々億棟」の掛け声も高く棟木を木槌で打ち固めます。

御木曳行事と同様、地元伊勢の住民や全国の特別神領民が「御白石」を曳き、完成した真新しい御正殿の御敷地に奉納します。

御柱の木口を木槌で打ち安泰を祈ります。

新殿の竣工にあたり御敷地を突き固めるおまつり。古歌を唱え、白杖で御柱の根本を突きながら新殿のまわりを巡ります。

新殿の竣工を感謝し、その平安を祈ります。

「遷御」の儀に先だって、御装束神宝や神宮祭主以下の奉仕者を「川原祓所」で祓い清めます。

式年遷宮の中核をなすおまつり。午後八時、全ての灯りが消された淨闘の中、大御神は本殿を出御、新殿で入御されます。

百名を超える奉仕者は御神宝等を手に付き従い、参道沿いの多くの奉拝者が見守る中、莊厳な古代絵巻が繰り広げられます。

遷御の翌日、天皇陛下から奉られる幣帛を新殿の大御神に奉納します。

宮中の樂師が神宮に遣わされ、御垣内の四丈殿で庭燎の灯りがゆれる中、深

夜まで嚴かに御神樂を奏できます。

第63回神宮式年遷宮 行事一覧

遷御(令和十五年)	式年遷宮の中核をなすおまつり。午後八時、全ての灯りが消された淨闘の中、大御神は本殿を出御、新殿で入御されます。
大祓(令和十五年)	百名を超える奉仕者は御神宝等を手に付き従い、参道沿いの多くの奉拝者が見守る中、莊厳な古代絵巻が繰り広げられます。
御神樂(令和十五年)	遷御の翌日、天皇陛下から奉られる幣帛を新殿の大御神に奉納します。
御神樂(令和十五年)	宮中の樂師が神宮に遣わされ、御垣内の四丈殿で庭燎の灯りがゆれる中、深